



いずみ野

令和2年1月7日発行
発行責者 校長 松藤 朋治

2030年を展望して

校長 松藤 朋治

明けましておめでとうございます。

令和として初めての新年を迎えました。皆さんはどのように新年を迎えられたでしょうか。私はテレビ中継で箱根駅伝を見ましたが、チームのためにたすきをつなごうと懸命に走る選手の姿に感動しました。数日後に放映された番組では、逸話も紹介されていました。ある選手は監督から告げられた言葉に発奮し、「箱根で走る」という目標に向かって努力してレギュラー入りを果たしたそうです。その原動力となったのは、選手の“主体性”です。実は、教育界においても子供（学習者）に主体性をもたせる学習方法が注目されていて、来年度から施行される学習指導要領の核にもなっています。



▲ 新年を迎えた本校の校舎

今年は、いよいよオリンピック・パラリンピック東京大会が開催されます。走り方をはじめシューズの性能に至るまで様々な技術開発が進んでおり、箱根駅伝同様に新記録が続出するような予感がします。しかし、どんなに走り方を研究したところで、結局走るのは本人です。選手自身がどれだけ主体的に取り組んだのか、逸話も放映されることでしょうか。子供たちがメディアを通してオリ・パラを楽しむときに、そういった逸話にも目が向き、そこから自分にとって大事なものを取り込んでほしいです。オリ・パラを通して学ぶ“自分への影響”は、おそらく、子供たちにとって生涯大切な宝物となることでしょう。

さて、令和2年（西暦2020年）は、単年としてだけでなく約10年間を見通したものとしても注目されています。実際、書店に行くと「2030年」を展望した様々な書籍が平積みされています。ある教育関連本には、10年後には今とは異なった教育のあり方になるだろうという予測が書かれていました。AIの開発に象徴されるように、時代が変化するスピードが予想以上に速いからです。一方、どんなに時代が変わっても不易なものがあります。それは、2030年に向けて国連が定めた目標であるSDGsに象徴される、人類が存続していくために大切にしていけるべきものです。

本市教育委員会からも、これから10年間を見通した教育の構想である「横浜教育ビジョン2030」が出されています。その書き出しには、「複雑で変化の激しい時代、解が一つではない課題にも柔軟に向き合い、持続可能な社会の実現に向けて、自分たちができることを考え、他者と協働し、解決していくことが重要」と記されています。



▲ いずみ野田んぼでの稲刈り

本校でも、令和2年度から実施する本校教育課程（カリキュラム）を、2030年を展望して作成しています。国語、算数といった教科学習や特別活動などの教育活動は、時代の変化に対応した新しい学び（主体的、対話的で深い学び）を展開していきます。また、食農の文化を学ぶことを通して、持続可能な社会の担い手を育てていきます。

子供たちの幸福実現に向け今年もご理解ご支援をお願いするとともに、新年が皆様にとって素敵な年になりますよう心よりお祈り申し上げます。